

《会長及び副会長選任》

全会一致により以下のとおり決定した。

役職	委員氏名
会長	湯谷 賢太郎 委員
副会長	川口 正彦 委員

《議題1 令和2年度事業実績について》

①コロナ禍において施設の利用者数の減少は仕方がない部分がある。オンラインの自主事業を行ったことは評価できる。利用者実績の項目にオンラインを設け、自主事業実績表にあるオンラインでの自主事業への参加者も利用者実績にカウントしてもらおうと実態が分かりやすいように思う。

(回答)

実態が把握できるよう、オンラインでの自主事業への参加者については、利用者実績の項目にオンラインを設け、集計していくことといたします。

②利用者の減少は、新型コロナウイルス感染症感染対策上、仕方がなかったと思います。高齢者が多く活動している団体では、オンラインでの活動は難しかったと思います。また、活動を必要としている方から、こども食堂などの開催を安心して、利用されて良かったと声があるが、停滞した活動を再開させるためにも、ガイドラインのわかりやすさや周知に力を入れていくべきだと思います。

(回答)

今後も多くの方に施設や団体活動を知っていただくための働きかけや団体活動促進に向けての情報発信の強化に努めてまいります。

③市民活動は現状のような社会情勢の中でこそ、力を発揮されるべきものと考えています。ですので、市民の生活を支援し、プラスとなる市民活動を育てていくことはセンターの重大な責務だと考えます。コロナ禍での運営がご苦勞の多い事は承知していますので、来場者数等の数などの数字にこだわることは意味がないと思います。

他団体が主体となっていく事業、専門家を講師として招聘したり依頼したりして実施するもの以外で、センターが主体となって企画・運営する事業としては「みらいラボフェスタ」だと思いますが、今年の進捗状況と開催予定、担当される方が考えている開催の目的・趣旨について教えてください。

(回答)

11月3日（水）に開催される「木更津オーガニックシティフェスティバル2021」内にて「みらいラボフェスタ」を開催いたします。

「みらいラボフェスタ」は、市民活動、施設の周知や交流を目的に、活動報告、体験会、販売などを通じて、市民活動をより身近に感じていただく場としております。

④他団体主催のイベントを自主事業の中にたくさん入れられていますが、これを自主事業とした理由、事業の中でのセンターの役割について教えてください。

(回答)

市民活動支援センターが主催している事業であるため、自主事業としております。なかにはセンター単独での開催が難しい場合もあるため、団体に講師などとしてご協力いただき実施している事業もございます。センターの役割としては、協力団体とともに事業を企画、周知、運営し、主催者として自主事業の実施をしております。

⑤今年度の自主事業の内容について、開催主体別に分けて、進捗状況と今後の予定について詳しく教えてください。

(回答)

自主事業でありますので、全て市民活動支援センターが実施主体となっており、先述したように、事業を運営していく中で、団体等のご協力をいただくこともございます。

自主事業の進捗状況につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による施設の貸し出し休止、自主事業の自粛期間があり、「市民活動相談会」、「コミュニケーション講座」、「ボランティア・市民活動マッチングプログラム」、「専門家による個別相談」、「きさらづみらい Café」、「物品販売」、「みらいマルシェ」以外は、実施できておりません。

また、今後の予定につきましては、11月3日に「みらいラボフェスタ」、12月に「こどものアトリエ」に代わる事業の実施が確定しており、その他については、協力者等との調整等、実施に向けてスケジュールの検討を進めているところです。

⑥1.利用者実績 令和2年度の実績や、新型コロナウイルスの影響を考えた場合、令和3年度の目標値を増加させたのは現実味に欠けているように思いました。

(回答)

目標値につきましては、指定管理期間3か年のうちの令和3年度目標として当初から定めている目標となります。新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が減少しておりますが、10月1日に緊急事態宣言が解除されたことを受け、施設利用の制限を緩和したところです。利用者の中には、まだ施設の利用に不安を感じている方もいらっしゃると思いますが、センターとして、引き続き、利用促進のための環境づくり等の働きかけをしていき、限られた時間ではありますが、目標が達成できるよう努めてまいりますので、ご理解いただければと思います。

⑦特に「2.令和3年度自主事業実施計画」ですが、今年初めて委員となり、昨年度の「自主事業」をあまり知りませんでした。開催に関しての広報活動をまめに行っていたら、と思います。『ラボ通信』などはほとんど見ていないような気がします。多くの読者のいる『広

報きさらづ』に載せたり、『房総ファミリア新聞』に依頼したりと、幅広い対策が必要ではないかと思えます。『房総ファミリア新聞』は広範囲となりそうなので、木更津市民限定とするなどの考慮が必要かもしれません。昨年度の事業を知っていたら、複数個参加したかった内容があったくらいです。

(回答)

市民活動支援センターの機関紙である「ラボ通信」については、関係機関に設置し、ご覧いただいているところですが、より多くの方に手に取っていただけるような内容の検討や周知方法などを検討していきたいと考えております。

また、事業の周知につきましては、より多くの方への周知が期待できる「広報きさらづ」や「房総ファミリア新聞」を含め、様々な媒体での情報発信を検討し、周知に努めてまいります。

#### ≪議題2 令和3年度事業について≫

①2階会議室は換気の難しさを感じる。サーキュレーターを設置など工夫が必要ではないか。

(回答)

現在、利用者には、扉の常時開放と30分毎に窓を開放するよう、換気の徹底をお願いし、ご利用いただいております。いただいたご意見も含め、換気方法の工夫を検討し、安心してご利用いただけるよう努めてまいります。

②団体活動踏査は非常に評価できる。実際に見た内容から団体の課題を解決するための提案や、活動を広げてもらえるような提案などを行ってもらえれば市民活動の活性化につながると思う。

(回答)

調査の際に、課題や問題を抱えている団体には「専門家による無料相談会」のご案内やイベント周知への協力などをしております。引き続き、課題解決や活動の活性化に向けて、相談体制やスキルの強化、周知方法の工夫に努めてまいります。

③コロナの波が収まりつつあるように感じる今、市民活動にとって大切なことは市民活動の灯を消さないこと、そしてポストコロナに向けて、休止している活動があれば、スムーズな活動再開への準備をすることではないかと思う。問題を抱えている団体のサポートをぜひお願いしたい。安心安全な会合の場の提供や安全な活動遂行に関する知識の発信など、センターとしてできることも多いように思う。

(回答)

引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策ガイドラインに基づき、感染予防対策を徹底し、安心安全に施設をご利用いただける環境づくりと、課題解決に向けた相談会の実施やスキルアップを目的とした講座の実施、交流機会の提供、情報発信など、様々な形でサポートしていきたいと考えております。

④コロナ禍でメンバーの減少や活動が停滞し、今後に不安を感じている団体が多いようなので、「スタッフの相談対応スキルの強化」や「専門家による無料相談会」は良い事だと思います。団体の活動が継続できるよう、引き続き相談、支援をお願いします。

(回答)

引き続き、相談会や団体活動促進に向けて講座の実施など、様々な形で団体をサポートし、団体活動の継続、活性化につながるよう努めてまいります。

⑤利用促進に向けて、最近のコロナ禍を考えて、医療などの部門へ力を入れていくのは良いと思います。講座やセミナーには、地震などの防災が、多くの方々に興味を持っていただけるとと思います。

(回答)

今後も市民や利用者の声を聞き、多くの方が興味をもって参加していただけるような講座やセミナーを開催していきます。

相談対応と研修の機会について伺います。

⑥相談の受付対応は、これから活動しようとする市民の意欲の発露でもあり、それを受け止めて育てるのは大切なセンターの役割であると考えます。毎月開催されている市民活動無料相談会では、私どもの団体の者が相談員として担当させていただいていますが、それを含めて、センターで受けた相談の対応の仕方について教えてください。

センターが受けた相談は、その後どこかに繋いだり紹介したり、センターで調べるなどをして、支援するために動かれていると思いますが、例えば、無料相談会で（スタッフではない）相談員が受けた相談をその後、スタッフの誰かが引き継いで対応したり、センターの利用につなげたりするための工夫はどのようにされているのでしょうか。

(回答)

現在、体制の整備ができておりません。今後は、継続した支援に向けた体制を整備し、センターの利用につながるような対応を検討していきたいと考えております。

②対応が完結するまでの記録等はされていますでしょうか。それを振り返って反省したりする機会をもたれていますでしょうか。

(回答)

現在、実施できておりません。今後は、対応記録を作成し、それをもとにした反省する場を設け、今後の対応に活かしていきたいと考えております。

③受けた相談や対応の内容を研修の教材と捉えて、スタッフ会議などでみんなが共有する、さらに勉強会などの時間を持つこともできると思いますが、それは難しいでしょうか。

(回答)

今後、スタッフ研修などでの情報の共有や勉強する機会を設け、スタッフのスキルアップを図っていきたいと考えております。

②1-(1) 利用方法として、今後、対面と ZOOM を併用して活動できる環境作りはお考えでしょうか。

(回答)

現在、体制の整備ができておりません。今後、より多くの方に参加いただけるよう対面とオンラインの併用による開催に向け、方法を検討していきたいと考えております。

③1-(2)-② 市民活動実地調査を全団体行うのではなく、事前にメール等で現況調査を行い、必要だと思われる団体や、希望された団体に行うのはいかがでしょうか。

(回答)

ご意見を参考に、適切な調査方法や内容を検討したいと思っております。

④1-(2)-④ 専門家の無料相談会の周知が足りないように思います。

(回答)

現在、ラボ通信、Facebook、広報きさらづ(5月号)で周知しておりますが、他媒体での周知や頻度など周知方法を検討いたします。

⑤1-(3) 利用者の声より、学生が多く利用しづらいとありますが、フリースペースの学生利用と一般利用の割合はどのくらいでしょうか。

また学生からは、学習スペースの増加希望が寄せられていますが、「学生の居場所」としての「みらいラボ」をどうお考えでしょうか。

その他に記載されている項目で、対策等の進捗状況があれば教えてください。

(回答)

利用率といたしましては学生 8 割、一般利用 2 割でございます。

一般利用者からの学生が多く利用しづらいという声も真摯に受け止め、どちらも、利用しやすい環境づくりをしていかなければいけないと感じております。ただ、「学生の居場所」が木更津市に少ないということは、市の課題でもあると考えておりますが、センターとしても、利用する学生たちと、彼らの求める居場所とは何かを話していきたくて考えています。

その他のうち、利用制限の解除につきましては、市が定める新型コロナウイルス感染予防対策ガイドラインに基づき実施しており、感染状況に応じてガイドラインの見直しがされているところです。センターとしても、現場に即した内容となるよう随時協議し、多くの方のご利用いただけるよう努めております。

また、駐車場の台数につきましては、併設の駐車場が満車の場合は、木更津市駅西口市営駐車場をご利用いただき、利用者には駐車券の配布する代替措置を実施しております。この代替

措置の周知を徹底し、利用者にご不便のないよう努めていきたいと考えております。